

結論

当該研究では使い捨て容器を用いたろ過濃縮装置を開発し、内径 35mm 程度と小型でかつ簡便な装置へとまとめることができた。粉体ケーキろ過法により十分なる過量の確保、易収納・保存性、高回収率等が保証されており実用性に富んだ濃縮方法として迅速検査への利用が期待される。

参考文献

厚生労働科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）「最近の科学的知見に基づく水質基準の見直し等に関する研究（主任：眞柄泰基）」より、平成 18 年度分担研究報告書（遠藤卓郎）

D. 研究発表

泉山信司、大内一敏、遠藤卓郎、粉体ろ過によるクリプトスポリジウム濃縮保存法の開発、第 59 回全国水道研究発表会発表予定、平成 20 年仙台市

E. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 出願中（特許出願 2 0 0 6 - 2 1 1 3 4 0）
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし